



「できるニャンと道路の渡り方」は7分間のアニメーション。交通安全指導員が手助けしながら「これから何が起きるのか」「何が危ないのか」を園児に考えてもらう



マーガレット保育園での「できるニャン体操」の様子



クルマ役になっている交通安全指導員が止まっていることを確かめてから道路を渡り始めるように指導



静岡県交通安全協会浜松中央地区支部・交通安全指導員の高柳真麻さん（左）、谷友裕子さん（中央）池田千穂さん（右）

### 静岡県浜松市・マーガレット保育園での交通安全教室

静岡県交通安全協会浜松中央地区支部は6月27日、浜松市西区にあるマーガレット保育園で37人の園児を対象に交通安全教室を開催した。指導は同支部・交通安全指導員の谷友裕子さん、高柳真麻さん、池田千穂さんが担当。今回は交通安全教室として「できるニャンと交通安全を学ぶ」を初めて活用した。まず、「できるニャンと道路の渡り方」というアニメーションが前方のスクリーンに映し出される。女の子がお母さんと幼稚園から帰宅している途中に危ない場面に遭うというストーリーだ。道路の反対側にいる友だちから声をかけられた女の子が車道に飛び出しそうになるところで映像を止め、この場面では何が危ないか谷友さんが園児に質問。「クルマが走ってくる」という声上がる。映像を進めると、クルマが女の子の前を通過していく様子が流れる。再び映像を止めて、谷友さんが安全に道路を渡るにはどうしたらいいか問かけると、「手を上げる」「観る」と園児が答えた。そして、「道路を渡る時は、まず止まってください。次に右、

左、右を観て、クルマが来ていないことを確かめてから渡ってください。クルマが来ていたら待ちましょう」と谷友さんが説明する。そして、「できるニャン体操」を使って、「止まる」「観る」「待つ」の動作を園児に覚えてもらう。この後、模擬の信号機や横断歩道で教室内に道路や交差点を再現。園児が覚えた安全確認行動を実践する。谷友さんは「できるニャンがスクリーンに現れたとたん、子どもたちの視線が映像に釘づけになりました。楽しそうなことが始まるというワクワクした気持ちになったのだと思います」と、できるニャンというキャラクターは幼児を引きつけるパワーがあるという。「既製の映像教材は流したままになってしまいますが、このプログラムは途中で映像を止めて、子どもたちの意見を聞くことができます。そこに魅力を感じています」。園児と一緒に交通安全教室に参加したマーガレット保育園・保育士の大城加織さんは「止まって観ることの重要性が小さい子どもも理解しやすいプログラムだと感じました。交通安全指導員の皆さんの話を興味深く聞いていたのが印象的です」と感想を語った。

## Safety Report

セーフティルポ 子ども

## 幼児向けの交通安全教室での活用が進む 「できるニャンと交通安全を学ぶ」

今回は、静岡県浜松市と愛媛県新居浜市で実施された幼児向けの交通安全教室を紹介する。いずれも、Hondaが開発した幼児向け交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」を指導の中に取り入れている。



交通安全教室冒頭では腹話術人形を使って、車に乗った時の約束を説明



「できるニャンと道路の渡り方」を使い、園児への問いかけを通じて飛び出しの危険を伝える



聖マリア幼稚園での「できるニャン体操」の様子



新居浜市市民部防災安全課・交通安全教育指導員の山本和重さん（左）、河野一美さん（中央）、波片英子さん（右）

### 愛媛県新居浜市・聖マリア幼稚園での交通安全教室

新居浜市市民部防災安全課は6月28日、同市内にある聖マリア幼稚園で230人の園児を対象に交通安全教室を開催した。指導は同課に所属する交通安全教育指導員の山本和重さん、河野一美さん、波片英子さんが担当。まず、波片さんが腹話術人形「こうちゃん」との掛け合いを通じ、クルマに乗った時のお約束として「クルマに乗ったらチャイルドシートに座る」「クルマからは一人で勝手に降りない」「駐車場ではお父さんやお母さんと手をつなぐ」を呼びかけた。続いて、山本さんと河野さんが登場。「わくわくボックス」という手づくりの教材を使って、話を進めていく。全員で「わくわくボックス」におまじないをかけると、中からパン、バナナ、歯ブラシなどを描いたイラストが出てきて、そのイラストから考えたジェスチャーを園児にしてもらう。食べ物や日用品に混じって、歩行者用信号機のイラストが出てくると、河野さんは信号機の色の意味を説明した後、信号が青でも止まって右、左、右を観るように伝えた。そして、最後に「わくわくボックス」の中から出てきたのは、できるニャンのパ

ペット（ぬいぐるみ）。ここから「できるニャンと交通安全を学ぶ」が始まる。「できるニャン体操」で身体を動かした後、「できるニャンと道路の渡り方」を使って、園児と対話しながら飛び出しの危険性を伝えた。新居浜市では今年1月から市内の幼稚園・保育園での交通安全教室に「できるニャンと交通安全を学ぶ」を取り入れている。「できるニャンは小さい子どもに親しみやすそうなので、すぐに使ってみたいと思いました」と河野さんは振り返る。「このプログラムは自分たちが普段行っている指導内容の中に自然に取り入れることができました。アニメーションは飛び出しのシーン以外に、女の子がお母さんと歩いている場面も役に立っています。お母さんが車道側にいて手をつないでいるので、大人と歩く時の模範を子どもにわかりやすく示せるのです」。聖マリア幼稚園・教諭の生田倫世さんは「年少クラスの子どもたちも食い入るように映像を見ていたので、わかりやすいプログラムだと思います。どうすれば安全かを考えさせるステップは、幼児段階でも大切なことです。導入の体操は私たち教員も含めて楽しむことができました」と「できるニャンと交通安全を学ぶ」を評価した。

## 地域の子どもたちと交通安全を通じて触れあう



7月29日、本田技研工業（株）パワープロダクツ事業本部細江船外機工場（静岡県浜松市）で「Honda Marine サマーフェスタ in 細江」が開催された。このイベントは地域住民の方々と同工場の従業員との触れあいを目的に毎年行われている。今年は、このイベントに来場する子どもたちに交通安全を楽しく学んでもらおうとHonda安全運転普及本部のスタッフが交通安全教室を実施。「Honda交通安全かるた」のコーナーでは、スタッフが読んだ札に合わせて、子どもたちがかるた取りを楽しんだ。絵札を取った子どもには、その裏に書かれている交通安全のポイントを大きな声で読み上げてもらった。また、「Honda自転車シミュレーター」のコーナーでは、スタッフが子どもたちに自転車の安全な乗り方をアドバイスした。